

**角田市長期総合計画審議会
重点プロジェクトに係るグループ討議報告書**

1. 日時 令和3年6月24日(木) 午後2時30分から午後5時5分まで

2. 場所 角田市役所301会議室

3. 出席者

(1) 角田市長期総合計画審議会委員 16名

(柳井会長を除く、グループ討議参加者15名は、別添「重点プロジェクトに係るグループ討議 班編成」のとおり。)

(2) 事務局 7名

総務部長	中村 方彦
まちづくり政策課 課長	木村 信幸
まちづくり政策課 課長補佐	齋藤 学
まちづくり政策課 企画調整係長	齋藤 謙
まちづくり政策課 企画調整係 主査	渡辺 寛大
まちづくり政策課 企画調整係 主査	安達 宗平
まちづくり政策課 企画調整係 主事	佐々木あづさ

(3) 角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者 3名

七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 部長	山下 勝善
七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上席研究員	木村 暢男
七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上級研究員	皆川 乾介

4. 内容(概要)

1 開会

2 座学

柳井会長より、資料「角田市長期総合計画審議会 重点プロジェクトに係るグループ討議 事前説明」及びプロジェクターを用いて、実例を交えながらグループ討議を進めるにあたっての考え方等についての説明があった。

3 事前説明

木村まちづくり政策課長より、グループ討議の進め方について説明を行った。

4 グループ討議

出席委員が3グループに分かれ（別添「重点プロジェクトに係るグループ討議 班編成」参照。）、重点プロジェクトについてのグループ討議を行った。

はじめに、これまでの審議会を通して思っていることを一人ずつ話した後、グループの代表者を決定した。その後、3つの重点プロジェクトの方向性と具体的施策について、グループごとに討議を行った。

5 各グループからの発表

グループ内でまとまった重点プロジェクトに対する意見について、発表が行われた。発表の概要については次のとおり。

○グループ1 発表者：高野委員

重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】

女性の力を活かす。女性の力を集め、安心して子育てができるような環境をつくり、賑わいのある角田をつくってほしい。具体的には、第一に産婦人科を誘致し、市民が市内で出産できるようにするということである。

また、大人も子どももみんなが集える場所づくりも必要である。高齢者の持つモノづくりの技術を子どもたちへ教えることを通して「市民力」が生まれ、子どもたちは地元を誇りを持つようになり、高齢者は活力を持つようになる。例えば、みそづくりなどを子どもたちに教え、感動につなげられる。場所は廃校舎の利活用などが考えられる。せっかく「5つの“め”」という良いキャッチフレーズがあるのだから、身近に感じられるようにした方がよい。

○グループ2 発表者：渡邊委員

重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】

消防団などのなり手が不足している。なり手を育成し、地域で活動してもらう。教育の視点としては、普通科の高校では卒業後市外に出てしまうが、工業高校の場合は地元への定着率は比較的高いので、角田高校の学科を再編し、実業関係の学部があれば、二次産業が多い角田市とマッチする。

廃校舎の利活用について、近隣でも成功している事例があるが、条件が合わず難航しているようである。かくだ創業スプラウト事業で起業者を増やすなど、市民によるまちづくりを推進し、活用を進めていってはどうか。

重点プロジェクト③ 地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】

本市の総合運動公園は仙南屈指の充実度である。様々な大会が開かれており、道の駅の利用につながっている。現在は人数制限があり、あまり貢献できていないが、新型コロナウイルス感染症の終息後を視野に入れて道の駅での対応を改善すれば交流人口が増えるのではないかと。

○グループ3 発表者：齋藤(善)委員

重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】

「市民力」を活かすには、まちづくりを担うリーダーを発掘し育成することが大切ではないか。栃木県高根沢町の事例で、町の教育委員会が中心となって、子どもたちの得意なものに光をあて、町民センターのステージでその特技を披露する活動をしている事例も見受けられる。今後10年間で総合計画が花開くために、子どもにスポットを当てることが大切ではないか。また、教育の中でも「市民力」を活用できるのではないか。

重点プロジェクト② ともに生き、活かしあうまちづくり【地域共生】

角田市の価値をどう発掘し、評価し、発信するかが大切である。角田高校のある角田城址の歴史を紐解くと伊達の歴史が垣間見え、歴史のみならず、農業などの角田市に眠っている特徴・魅力が発掘される。これを官民一体となって情報発信を促すことが大切であると考え。官民連携の事例として、栃木県高根沢町の事例で、企業や保育園、環境NPO、行政などが連携して自然公園を整備し、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催のコンクールで賞を受賞して話題となった「ひだまり里郷プロジェクト」というものがある。こうしたまちの活動が明るみに出て活気づくものと考え。

重点プロジェクト③ 地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】

優位性のある「道の駅」、「農業」、「産業振興」等の資源を有効に活用するため、魅力を発信していくことが有効である。特に道の駅は郊外にあるため、如何にしてまちなかに人を誘導するかが大切である。道の駅の商品にその販売店の情報を掲載するなどして誘導する方法が考えられる。また、長く滞在してもらうことも必要である。角田市の強みである農業を活かし、農業体験などが有効ではないか。

道の駅について、「人の絶えない道の駅」にするためには、例えば、レストランでは地元の食材を使い、一つ一つのメニューが洗練されているなど、ソフト面の改善が必要である。

また、「満点青空レストラン」のような、その土地の魅力的な食材を紹介するTV番組があるが、そこで紹介されるような食材やメニューを発信し、取材に来てもらえるようなものを作ってほしい。感動とは人の期待を上回ることであり、感動を与えられる施策が必要と考える。

6 講評

柳井会長より、以下のとおり講評があった。

今回発表のあった内容を踏まえ、重点プロジェクト作成の中で横串を通すことを意識した議論をしてほしい。また、新しいコミュニティや企業に対する関係性の再定義が

必要となってくる。長期総合計画では「理想（ビジョン）」を掲げることとなるが、それを実現していくためには「意思決定」、「交渉力」、「情熱」、「実践」の4つの要素が重要であり、同計画の実施段階では各ステークホルダー間でこのことを共有し、実践しながら結果を出していただきたい。

7 閉会

角田市長期総合計画審議会

重点プロジェクトに係るグループ討議 班編成 (網掛けは、各グループ代表者)

グループ1

1	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長
2	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事
3	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計
4	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 会長
5	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長
6	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長
7	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 顧問

グループ2

1	一柳 知秋	七十七銀行 角田支店 支店長
2	日下 三郎	角田消防署 署長
3	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長
4	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長

グループ3

1	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 HRシェアードサービス部 宮城総務課 課長
2	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員
3	砂金 甚一	角田市社会教育委員
4	遠藤 尚志	大河原地方振興事務所 地方振興部長